

平成27年度

登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

東北ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分
2. 問題数 25題（四肢択一法）
3. 注意事項
 - (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
 - (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
 - (3) 本冊子は、表紙を含めて11頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
 - (4) 試験開始の合図で始めてください。
 - (5) 解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
 - (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
 - (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
 - (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題 1 登録基幹技能者に関して、最も不適当なものはどれか。

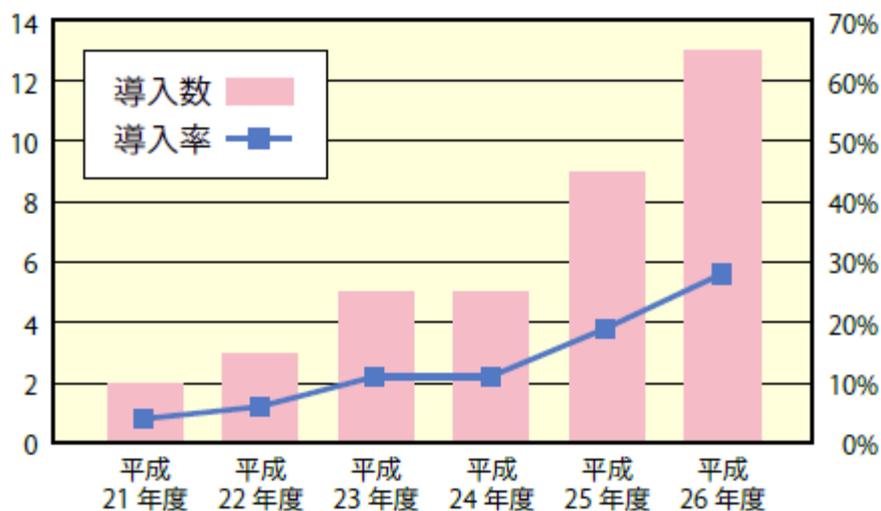
1. 登録基幹技能者は、熟達した作業能力、豊富な知識、現場を効率的にまとめるマネジメント能力を備え、専門工事業団体の資格認定を受けた者である。
2. 登録基幹技能者は、工事の品質・コスト・安全等への貢献とともに、技能労働者の目標像としての活躍が期待されている。
3. 登録基幹技能者の活用により、登録基幹技能者の確保・育成に努める優良な専門工事業者の受注機会の拡大が考えられる。
4. 登録基幹技能者の活用では、建設産業以外の他産業の担い手の確保・育成に大きく寄与することが期待されている。

問題 2 登録基幹技能者の制度概要に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 登録基幹技能者の根拠となる法令は、建設業法施行規則第 18 条の 3（建設現場において基幹的な役割を担う建設技能労働者の講習資格制度）である。
2. 登録基幹技能者の役割は、建設現場での技能労働者のトップ（総括職長）として、安全管理・品質管理等の横断的な調整・指導を実施することである。
3. 登録基幹技能者になるための要件は、① 実務経験 10 年以上、② 職長経験 3 年以上、③ 最上級の技能者資格（1 級技能士等）の保有 等である。
4. 登録基幹技能者の種類、人数、更新は、それぞれ、22 職種（22 団体）（平成 27 年 1 月末現在）、26,696 名（平成 27 年 3 月末現在）、10 年毎の更新により能力を担保している。

問題3 下図において、登録基幹技能者の国・都道府県の公共工事における評価・活用状況に関して、最も不適当なものはどれか。

[都道府県における導入状況]



1. 登録基幹技能者の公共工事の総合評価方式における評価・活用については、国土交通省では、平成17年度に北海道開発局が開始し、その後、順次導入が進み、現在では全ての機関で導入されている。
2. 都道府県においても、平成19年度に長崎県が開始し、平成26年度では13道府県で導入されており、さらに、都市再生機構等の独立行政法人においても導入されるなど、本制度の公共工事の総合評価方式における評価・活用は着実に進んでいる。
3. 登録基幹技能者は、平成26年度では、都道府県での導入率が、約65%である。
4. 登録基幹技能者の都道府県での導入は、毎年増加する傾向にある。

問題4 発注者の登録基幹技能者の評価・活用の声に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設現場の品質確保、安全性向上などのためには、現場で直接従事する技能労働者、職長の役割が重要であるため、登録基幹技能者制度は、有効な資格の一つである。
2. 登録基幹技能者は、熟達した作業能力と豊富な知識を持つとともに、現場をまとめ、効率的に作業を進めるためのマネジメント能力に優れた技能者であるため、工事目的物の更なる品質向上等が期待できる。
3. 登録基幹技能者を配置することは、主として工事速度の向上に大いに役立ち、早く、安くをモットーとした現場運営を行うことのできる技能者を評価することができ、今後の技能者のスキルアップにもつながる。
4. 技能労働者の位置づけを総合評価方式の評価対象とすることにより、登録基幹技能者を積極的に育成している企業が元請企業から活用される機会が増え、優良な専門工事業者の確保、優良な技能者の処遇改善につながり、ひいては若年者の入職促進、技能の伝承につながる。

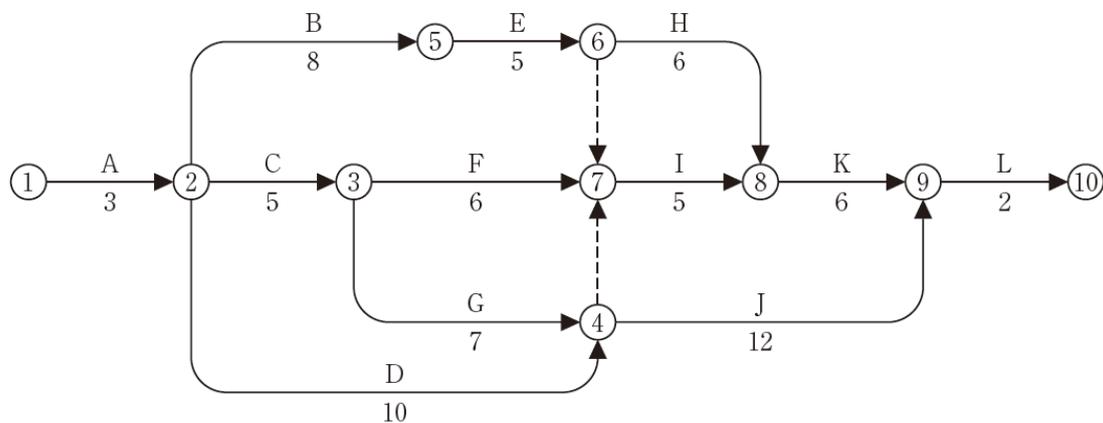
問題5 元請ゼネコンの登録基幹技能者における優秀職長または優秀職長手当制度に関して、最も不適当なものはどれか。

1. (一社)日本建設業連合会では、平成26年4月に発表した「建設技能労働者の人材確保・育成に関する提言」の一つとして、「建設技能労働者の賃金改善」を掲げている。
2. (一社)日本建設業連合会では、「優良技能者認定制度」の普及を推進することとしている。
3. 平成27年4月時点で「優良技能者認定制度(手当等あり)」を導入しており、このうち「登録基幹技能者」を認定基準としている元請企業は14社ある。
4. 登録基幹技能者の資格を取得し、優良技能者認定制度(手当等あり)の認定を受けることにより、年収が数千円増加することが見込まれる。

問題6 OJT教育における指導方法に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 部下の技能者を育てるためには、ほめること以上にしかることのほうが重要である。
2. 思ったことを口に出して実行させる場合、部下に対して人前でほめることも有効である。
3. 部下をしかる決断は、部下の側にしかる原因があることをよく見定めてから行わなければならない。
4. 部下を育てるためには、禁止型でなく奨励型でしかることが有効である。

問題7 下図の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表は、アロー型ネットワーク式工程表である。
2. この工程表のクリティカルパスは、A-B-E-H-K-Lである。
3. この工程表の矢線は、アクティビティ（作業）を示している。
4. この工程表における工事の工期は、33日である。

問題8 建設業法遵守ガイドラインに記載されている項目に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 工期（建設業法第19条第2項、第19条の3）
2. 支払保留（建設業法第24条の3、第24条の5）
3. 長期手形（建設業法第24条の5第3項）
4. 構造計算適合性判定の対象の見直し関係（改正法律第54号）

問題9 建設工事標準下請契約約款に記載されている内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 請負代金内訳書及び工程表
2. 権利義務の譲渡
3. 隣接工事との調整
4. 契約保証人

問題10 ブレーンストーミング(BS)に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 現象を数値的・定量的に分析する (品質管理: QCの7つ道具)
2. 粗野な考えを歓迎する (自由奔放)
3. 量を重視する (質より量)
4. アイディアを結合し発展させる (結合改善)

問題11 劣化のメカニズムに関して、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートの下地にセメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁は、
2. その境界面では、 3. 異なった変形挙動がおきる。 これを 4. サーマルムーブメント
トという。

1. コンクリートの下地にセメントモルタルを塗りつけてある左官仕上げの壁
2. その境界面
3. 異なった変形挙動
4. サーマルムーブメント

問題12 仕様書の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建築工事標準仕様書 JASS 18(左官工事) — (一社)日本建築学会編
2. 公共建築工事標準仕様書 — 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
3. 左官施工法 2013 — (一社)日本左官業組合連合会編
4. 建築工事監理指針 — 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修

問題13 塗り壁の故障の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 目地処理の不足 — 付着不良 — 目地処理を充分行う。
2. 塗り厚の不同 — ひび割れ — つけ送りをを行う。
3. 下地の吸水小 — はく離・ひび割れ — 吸水調整材を原液にする。
4. 混合不良 — 上塗りの色むら — ミキサーを使用して十分な練り時間を取る。

問題 14 ラスと各種構造および構法の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

表 JASS 15 2007

◎：望ましい組み合わせ ○：適用可能な組み合わせ △：条件により適用が可能な組み合わせ ×：好ましくない組み合わせ						
	種類 (700g/m ² 以上)	木造			鉄骨造	
		通気構法 (二層下地構法)、通気構法以外 (直張り工法)		通気構法 (単層下地構法)		
		内装	外装	外装	内装	外装
1.	平ラス	◎	×	×	×	×
2.	波形ラス	○	◎	×	×	×
3.	防水紙付きリブラス	○	△	×	○	○
4.	リブラス	○	△	△	◎	◎

問題 15 セメントモルタルの表面仕上げの記述に関して、最も不適当なものはどれか。

1. セメントモルタル張りタイルの下地は、木鏝仕上げにする。
2. タイル接着剤張りの下地は、刷毛引き仕上げにする。
3. 壁紙張り下地、防水下地は、金鏝仕上げにする。
4. 吹付け下地等の刷毛引き仕上げは、木鏝でならした後、金鏝で軽く押さえ、刷毛目を入れて正しく粗面に仕上げる。

問題 16 JIS A 6909 (建築用仕上塗材) の仕上塗材の種類および呼び名の記述に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 内装せっこう系厚付け仕上塗材 — 内装厚塗材 G
2. 内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材 E
3. 内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材 W
4. 外装合成樹脂エマルション系薄付け仕上塗材 — 外装薄塗材 E

問題 17 コンクリート表面の処理方法に関して、最も不適当なものはどれか。

枝番	処理方法	適用目的	概要	留意点
1.	高圧水洗浄	目粗し、脆弱層の除去	高圧水洗いの吐出圧力 50 ～ 150 N/mm ² 、吐出圧と運行速度は、コンクリート強度などによる。	必要な粗さを設定でき、作業者によるばらつきが多いが、施工管理が比較的容易であり、下階への水対策を検討する必要がある。
2.	サンダー掛け	目粗し、脆弱層の除去	ディスクグラインダーによって、コンクリート表面の目粗しを行い、表面に付着した粉塵を水洗いにより除去する。	特別な工具を必要とせず、作業は容易であり、埃や音の発生がある。施工にばらつきが出やすいので、見本などを作製し管理することが重要である。
3.	ブラシ掛け	清掃、脆弱層の除去	デッキブラシあるいは、ワイヤブラシによりコンクリート表面を擦り、塵埃や脆弱層を除去する。	作業は簡単だが、施工管理が曖昧となりやすい。水洗いを併用する。
4.	専用シートによる凹凸処理	コンクリート表面への凹凸付与	ポリエチレンフィルム製専用シートを型枠に取り付け、コンクリート表面に凹凸を付与し、それがセメントモルタルの塗りつけ時に食い込むことにより、はく離を防止する。	専用シートの廃材が発生するため、その処理対策を講じておく必要がある。

問題 18 現場調合セメントモルタル塗り工法の塗り厚に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 1回の塗り厚は、6mm を標準とし、9mm を限度とする。
2. 仕上げ厚は、天井、庇を 12mm 以下とし、その他は 25 mm以下とする。
3. 左官用軽量セメントモルタルの総塗り厚は、10mm 以下とする。
4. ALC パネル下地の総塗り厚は、30mm 程度を上限とする。

問題 19 PDCAサイクルに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 第1段階では、安全の確保は当然のこととして、品質、工程、原価の面で優れた計画を練り上げるとともに、第2、第3段階での目標値や判断基準値を適切に設定しておくことが重要となる。
2. 第2段階では、第1段階での計画に基づき適切に施工するとともに、実際の施工状態を容易に判断できるようなデータ等を正確に記録する。
3. 第3段階では、調査・記録したデータを工学的見地から適切に判断し、施工管理上の問題を明確にする。
4. 第4段階では、第3段階における判断結果に基づき、新たに計画を立てる。

問題 20 仮設備計画に関して、最も不適当なものはどれか。

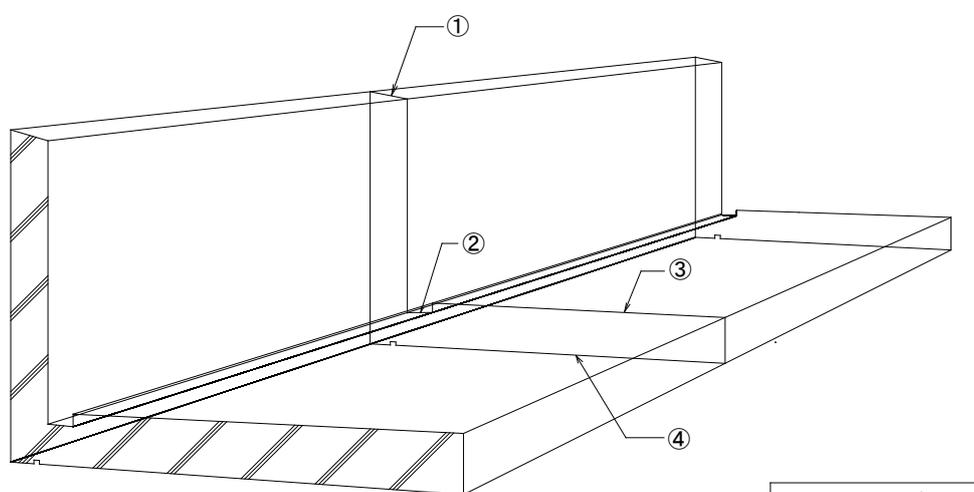
1. 仮設備が現場に設置されると、これらの施工設備及び機械が工事全体を組織化してしまうことから、仮設備の設計と配置は施工計画にとって極めて重要となる。
2. 本工事施工のために直接必要な仮設備工事を直接仮設という。
3. 間接的に必要な仮設建物関係を共通仮設という。
4. 労務者の宿舎は、直接仮設に分類される。

問題 21 建設工事の原価に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 予定価格とは、発注者側の予測原価である。
2. 入札価格とは、ゼネコンなどが自ら算出する価格で実行予算と同じ価格である。
3. 事後原価とは、工事が完了して初めて明らかになる原価で、当初の実行予算と対比することで、その工事から生み出された利益が確定する。
4. 一般管理費とは、ゼネコンが当該工事で確保したい本・支店経費や利益をいう。

問題 2 2 片持ちスラブに発生する伸縮クラック対策について、最も不適当なものはどれか。

1. ①の手摺天端部分は水勾配が取れているため、伸縮目地は必要ない。
2. ②の溝内側は最終的に防水処理をすることが多いが、ひび割れによる漏水を防ぐために伸縮目地を取り付け、適切な処置を施す。
3. ③の部分で、スラブ上に長尺シート等を張る場合は、貧調合のセメントモルタル等で目地を埋める程度で良い。
4. ④のあげ裏部分は漏水の心配がないため、コーキング等で防水処理をする必要はない。



片持ちスラブ姿図

問題 2 3 わが国の建設業における労働災害の現状について次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 建設業の安全対策が難しい理由の1つとして、作業内容が日々変化するため作業員の作業の慣れによる安全効果が期待しにくいことが挙げられる。
2. 建設工事全体の死亡事故の型別で見ると、墜落による事故が45%と圧倒的に多い。
3. 労働災害が減少した最も大きな理由は建設投資額の減少である。
4. 労働災害減少の要因として、より安全な施工法、省人化、大型化が挙げられる。

問題 2 4 法で定められた建設現場における安全管理について次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 事業者は作業員を雇い入れた時、その業務に関する安全衛生教育を行う必要がある。
2. 型枠支保工の組立または解体の作業は、作業主任者の配置が必要な作業である。
3. 現場では、整理、整頓、清潔、清掃の「4S」に努め、廃棄物は決められた場所に捨てることを徹底する必要がある。
4. 複数業者が混在する労働者数の合計が 200 人の現場では、1 人の安全衛生責任者を選任すれば良く、特に統括安全衛生責任者を選任する必要はない。

問題 2 5 各種労働災害防止対策について次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 移動式クレーンのアウトリガーは、出来るだけ小さく張り出して作業を行うのが効率的であるので推奨される。
2. 既存建築物は石綿が使用されているものも多く、その建築物の解体工事では石綿による健康障害防止対策を講じる必要がある。
3. 高さ 2m 以上の所で 足場作業や鉄骨作業などを行う場合、作業床を設置しなければならない。これが困難な場合は、落下防止ネットを張り、作業員に安全帯を使用させる必要がある。
4. はしごの正しい使い方は、はしごの上端を床から 60cm 以上突出させしっかり固定し靴底の泥を落とすことなどがある。